## 🧎 戦後復興、輸出の時代(昭和20年~29年)

缶詰は、重要な輸出物資として戦後経済復興を果たす役 戦後~石油ショック期の缶詰、レトルト食品生産、輸出入 割を担うと同時に、国民の食糧確保の役割を求められた。こ 干トン 900 のことから、缶詰産業は重点産業に位置づけられたが、技術 缶詰生産 800 レナルト食品生産 導入や設備更新などに要する資金不足、原料調達難でなか 缶詰輸出 700 缶詰輸入 なか実効性をあげることが難しかった。 600 昭和20年の缶詰生産は最盛時の40分の1程度の38万箱(日 500 露戦争前とほぼ同水準)に落ち込んだ。 400 300 200 100 1957 HAM 32 1953 HH H128 1953 MH H 34 1967 (18/142) , 954 MH 130 1963 HH H138 1,964 MA HAO 1969 HARIAA 1971/18/146 1951(18) 126 1,967(HH H26 1913 HHRAS

## 輸出の再開

- ・昭和22年の缶詰輸出量2.059トン
- ・昭和25年の缶詰輸出高が生糸に次いで第二位 (輸出物資としての地位を高める)

## 缶壜詰協会が誕生(昭和23年)

(社)日本缶詰研究所(昭和21年設立)と日本缶詰製造業組合(昭和20年設立。22年に缶壜詰振興会に改称)と当時休眠状態にあった日本缶詰協会との3団体を一体化した昭和25年5月に「日本缶壜詰協会」に改称 昭和27年に「日本缶詰協会」と改称して、創立当時の名称に戻る。事業目的には、

国民生活の安定のための食糧確保 戦争被災缶詰工場の復興援護 国民の栄養摂取に対する方策 食糧増産施設への支援、が挙げられた。

## 日本缶壜詰協会が中心になった統制撤廃運動

缶詰の統制撤廃(昭和24年) 缶詰の物品税と空缶の統制撤廃(昭和25年)。



